

支所だより

各総合支所管内での身近な出来事や話題などを毎月お知らせするコーナーです。

東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

あったかい手触り・温もりのある和紙
～周桑手すき和紙～

東予総合支所からは、東予地域の伝統工芸である周桑手すき和紙をご紹介します。

周桑手すき和紙の歴史は、天保2年(1831年)に、中興の祖である田中佐平翁が貧困に苦しむ国安村の人のために、私財を投じて紙すき業を創業し、農家の副業として広く指導したことに始まります。やがて主として奉書紙などをすくようになり、副業から専業へと大きな産業として成長し、全国一の生産地へと発展していきました。しかし、機械すき製紙の発展、西洋紙の需要増加、市況の低迷などの影響を受け、幾多の衰退を繰り返してきた生産者は、最盛期の昭和25年頃には50軒ほどありましたが、昭和30年頃からの機械紙の急迫などの要因でだんだんと数が減り、現在は5軒ほどになっています。

奉書紙・檀紙は、全国シェアの90%以上を生産しており、本来は儀式用として用いられていましたが、その時代に合わせた付加価値の高い加工品の開発も行われています。

ほとんどの工程を手作業で行っており、通気性に優れ、また手触りもよく温もりが感じられることから、今でも全国の人に愛され続けています。生産者が少なくなってきていますが、先覚者から受け継がれてきた伝統工芸である周桑和紙を守り、後世へと受け継がれることを願っています。



◀ 和紙の乾燥風景
和紙製品 ▶

丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

自主防災組織の結成に向けて

丹原総合支所管内の各地域におきましては、以前から災害発生時や緊急の場合は、区長(現自治会長)さんを中心に自主的な防災活動が実践されていましたが、その地域活動を整備し「自主防災組織」として結成しているところです。今年4月1日現在、管内の組織率は、39.1%(16組織)ですが、近い将来高い確率で発生が予想されている、東南海・南海地震、また台風などの大災害に備え「自分たちの地域は、自分たちで守る」という自覚と連帯感に基づくコミュニティ活動の核となる組織づくりが求められています。そこで、未結成の地域におきましては、今年度中の組織結成に向けて、地域ごとに説明会の開催などの取り組みが順次進められています。また、管内で結成された自主防災組織の中で、来見自主防災会が去る2月25日、全戸を対象に

防災訓練を実施しました。当日は、厳しい寒さが残る早朝でしたが、220人余りの地域の皆さんが参加され、各家庭から避難場所の丹原西中学校まで、隣近所の班ごとに徒歩での避難経路と所要時間の確認を行いました。その後、中学校のグラウンドで西条西消防署員から消火器、防災資機材の使い方や毛布を利用した簡単な救助用担架の作り方の指導を受けるなど、より実践的な訓練が行われました。



消火器を使った消火訓練

小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

石鎚に残る幻の黒茶の伝承者

小松町石鎚地区では、昔から石鎚黒茶というお茶が作られてきました。しかし、主産業である林業などの衰退によって黒茶の作り手であった住民の石鎚離れが進み、現在黒茶を作っているのは曾我部正喜さんお一人になりました。

黒茶は、お茶の葉を加熱した後に発酵させる後発酵茶です。後発酵茶の中では中国のプーアル茶が有名ですが、日本では石鎚黒茶のほかに数種類しかないめずらしいものです。独特の香りと酸味のある味で、後口がさっぱりしています。さらに血圧の上昇を抑える作用を持つγ(ガンマ)ーアミノ酪酸が多く含まれています。

黒茶を作るには、まず茶葉を蒸し、桶に詰めて1週間ほど自然発酵させます。桶から取り出した茶葉をもみ、再び桶に詰めて2回目の発酵をさせます。これを天日干して、

約1カ月で完成となります。

昔ながらの作業を毎年続けてきた曾我部さんに、黒茶の魅力を聞くと「このお茶を昔からずっと飲んでいて、一番好きなんよ。」

以前、孫が遊びに来たときも、黒茶を飲んで『おいしい』と言ってくれたときはうれしかったね。子どもでも大人でも心を休めることができるお茶なのかもしれないね。これからも、できる限り作り続けたいですね」と、にこやかに答えてくれました。



▲ 曾我部正喜さん

◀ 樽詰め茶葉